

栃木県結核・感染症発生動向調査情報

(サーベイランス)

令和3(2021)年7月(週報第 27 週～第 30 週(7/5～8/1))集計の感染症発生動向調査情報に関する解析結果は次のとおりです。

1 感染症解析情報 {7月は4週間、6月は5週間、前年同期は5週間での比較となります。}

(1)概況

ア. 7月の報告数は次のとおりです。全数(1～5類等)把握疾病は、**1,352 件**(6月 **836 件**)でした。定点把握疾病のうち週報疾病(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点の週報)は **1,148 件**(定点あたり **6.27 件/週**)であり、6月の **1,449 件**(定点あたり **6.29 件/週**)と比較し、週あたり **1.00 倍**とほぼ同様の水準で推移しています。

イ. 栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。(定点把握週報疾病)

疾病名	報告数	前月との比較 (週あたり比)	前年同期との比較 (週あたり比)
RSウイルス感染症	670 件 (週あたり平均 167.50 件)	↑ (1.26 倍) 前月は 667 件 (週あたり平均 133.40 件)	↑ (837.50 倍) * 前年同月 1 件 (週あたり平均 0.20 件)
感染性胃腸炎	246 件 (週あたり平均 61.50 件)	↓ (0.68 倍) 前月は 455 件 (週あたり平均 91.00 件)	↑ (1.23 倍) * 前年同月 249 件 (週あたり平均 49.80 件)

- ① **RS ウイルス感染症**は、前月に比べ報告数が 1.26 倍とかなり高い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 837.50 倍と大幅に高い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、大幅に高い水準で推移しています。
- ② **感染性胃腸炎**は、前月に比べ報告数が 0.68 倍とかなり低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 1.23 倍とやや高い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、やや低い水準で推移しています。

(2)全数(1～5類)把握疾病情報(全国)

ア. 1類、2類、3類疾病及び新型インフルエンザ等感染症

結核 1,131 件(6月 1,549 件)、細菌性赤痢1件(6月0件)、腸管出血性大腸菌感染症 454 件(6月 448 件)、新型コロナウイルス感染症 129,582 件(6月 61,617 件)の報告がありました。他の疾病の報告はありませんでした。

イ. 4類・5類(上位 6 疾病)

順位	疾患名	件数	前月件数
1	梅毒	575	774
2	レジオネラ症	318	259
3	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	138	216
4	後天性免疫不全症候群	91	112
5	侵襲性肺炎球菌感染症	76	130
6	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	48	54

ウ. 栃木県では次の報告がありました。(計 1,352 件)

結核 12 件、新型コロナウイルス感染症 1,312 件、腸管出血性大腸菌感染症 1 件、A型肝炎 1 件、レジオネラ症 9 件、アメーバ赤痢 1 件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 件、急性脳炎 3 件、後天性免疫不全症候群 1 件、侵襲性肺炎球菌感染症 1 件、梅毒 10 件

※本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがあります。

2 疾病の予防解説

国内及び国外で患者の報告数が急増している新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について解説します。日本国内では、デルタ株の拡大等により患者数が著しく増加傾向にあります。本県においても、特に7月下旬以降、感染の急拡大が見られ、令和3年8月8日には「警戒度レベル県版ステージ4」が発令され、「まん延防止等重点措置区域」に指定されました（内容の詳細は下記の栃木県ホームページから確認できます）。

3密（特にリスクの高い5つの場面）の回避、マスクの着用、手洗いなどの基本的な感染予防が重要です。感染のリスクを下げるため、人混みや、換気の悪い場所での長時間の滞在、多人数での飲食（路上・公園等含む）や感染防止対策が不十分な場所への外出、都道府県をまたいだ移動などはできるだけ控えてください。また、体調が悪い場合には、職場や学校を休むなど、外出を控えましょう。

栃木県ホームページ 警戒度レベル県版ステージ 4「緊急事態宣言」における対応について

: <https://www.pref.tochigi.lg.jp/e04/welfare/hoken-eisei/kansen/hp/manenboushi.html#tekiyougai>

疾病名	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）
原因と潜伏期間	<p>新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）によって引き起こされる感染症です。主な感染経路は飛沫（ひまつ）感染で、換気の悪い環境では、咳やくしゃみなどがなくても感染すると考えられています。また、ウイルスを含む飛沫などによって汚染された環境表面からの接触感染もあると考えられます。</p> <p>潜伏期間は1-14日間で、5日程度で発症することが多いです。発症前から感染性があり、発症から間もない時期の感染性が高いことから、市中感染の原因となっています。感染可能期間は、発症2日前から発症後7~10日間程度と考えられています。</p>
症状	<p>主な症状は、発熱、咳、倦怠感、息切れ、筋肉痛などで、下痢や嘔吐がみられる場合もあります。症状はインフルエンザや風邪に似ていますが、味覚障害や嗅覚障害の頻度が高いことが特徴で、1割程度の人に見られます。感染した人は、発症から1週間程度で回復する患者が多い（約80%）ですが、軽症であっても急激に悪化することもあります。重症例では、人工呼吸器など集中治療を要する、重篤な肺炎症状を呈し入院期間も長期化する事例が報告されています。</p> <p>高齢者・基礎疾患を有する方・妊婦の方などは、特に注意が必要です。</p> <p>また、一部の方は回復した後も、嗅覚障害、呼吸困難、倦怠感、味覚障害、脱毛等の「後遺症」も報告されています。</p>
予防対策	<p>感染を予防するためには、基本的な感染予防の実施や「3つの密」を避けること、感染リスクが高まる『5つの場面』での注意をすること、不要不急の外出の自粛等が重要です。</p> <p>【基本的な感染予防】</p> <p>石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒などを行ってください。外出時はマスクを着用し、咳エチケットを心がけましょう。また、十分な睡眠をとることも重要です。</p> <p>【「3つの密」を避ける】</p> <p>「3つの密」（密閉空間・密集場所・密接場面）では、感染を拡大させるリスクが高いです。</p> <p>【感染リスクが高まる『5つの場面』に注意する】</p> <p>①飲酒を伴う懇親会等 ②大人数や長時間におよぶ飲食 ③マスクなしでの会話 ④狭い空間での共同生活 ⑤居場所の切り替わり</p> <p>【家庭内感染の予防:ご家族に感染が疑われる人がいる場合は以下の8点に注意しましょう】</p> <p>①部屋を分けましょう ②感染が疑われる家族の世話はできるだけ限られた方にしましょう。 ③できるだけマスクをつけましょう ④こまめにうがい・手洗いをしましょう ⑤換気をしましょう ⑥手で触れる共有部分を消毒しましょう ⑦汚れたリネン、衣服を洗濯しましょう ⑧ゴミは密閉して捨てましょう</p>

（疾病の予防解説 参考）国立感染症研究所 ホームページ <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases.html>

厚生労働省 ホームページ <https://www.mhlw.go.jp/>

厚生労働省 新型コロナウイルス感染症 診療の手引き 第5.2版

3 その他の参考事項

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムにより、7月に県内で発生した警報および注意報はありませんでした。

※国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムは、過去の週ごと・保健所ごとの届出数に基づき、届出数が特に多いとき（およそ上位1%以内）に警報が発生されるよう、疾病ごとに定点当たりの基準値が定められたものです